



2017年度事業計画

一般社団法人沼津青年会議所

基本理念

今を全力で取り組む

基本方針

1. より多様な意見が出る組織となるために12名以上の会員拡大
2. 市民参画のまちづくりを行う
3. 自己の成長の機会を積極的に活用する

2017年度 沼津JCスローガン

熟慮断行

あす
～明日が希望であるために～

2017年度 理事長所信

はじめに

沼津青年会議所が1954年3月7日、沼津市に創立され、現在に至るまで多くの先輩方が様々な活動を行ってまいりました。

この間、我々を取り巻く環境には高度経済成長、バブル経済の崩壊、リーマンショック、携帯電話やインターネットの普及等、多くの変化がありました。そのような変化を受けながら、沼津青年会議所は先輩方の一貫した理念と柔軟な対応により新しい方向性を示すことを通じて、会の歴史を紡いできました。我々も、先輩方の築いてきた伝統をしっかりと承継しつつ、それと同時に、時代の流れに即して新しい考え方を生み出していきます。

沼津を含む地域の将来について、どうすれば、より明るくなるのでしょうか。そのためには、我々が希望を持つ必要があります。では、希望を持つためにはどうすればよいのでしょうか。そのためには、まず、我々自身が今できることを先延ばしにせず、やるべきことをしっかりと行うことで明日への憂いを断ち、未来を心待ちにすることが必要となります。次に、沼津青年会議所の会員相互が協力すると同時に、新たな考え方を知るために立場や考え方の異なる外部団体と協働していくことが必要です。協働の過程で、様々な考え方が組み合わせり新たな発見につながり、それが日々の楽しみを生み出すことになっていくのです。

では、今を全力で生きることと活発な意見交換をするためには何が必要か。そのためには、我々一人ひとりが資質を向上させるとともに、まちづくりに対して意欲を持ち、組織自体が活力を持ち、周囲の方々への感謝の気持ちを忘れないで活動をやりとげることが重要です。一人ひとりの行動が、このまちの未来を希望あふれるものにするのです。

会員各人の資質向上

青年は、これからの地域を担う責任のある世代です。そのため、青年は、地域を牽引する存在でなければなりません。青年が地域を牽引する存在であるためには、青年に指導者になるに足る資質が備わっている必要があります。具体的には、知識、発言能力、行動力、品格等が必要とされます。沼津青年会議所では、事業の一環として、会員の指導力の開発・資質向上に資する事業を行います。

また、資質向上を図る機会は沼津青年会議所内にとどまるものではありません。出向やその他団体との交流により、様々な経験をするとともに多くの仲間を作る機会があります。正会員の方々には、ぜひともその機会を活かして、そこで得た知識・経験を沼津青年会議所に還元してい

くとともに、沼津の素晴らしさを対外的にも発信していくことができるような人材となれるよう成長していきましょう。

会員各人の資質向上が、よりすばらしい、明日の沼津の発展に資するのです。

青年の観点からのまちづくり

青年会議所はまちづくりの団体です。では、そもそもなぜ我々はまちづくりを行うのでしょうか。それは、行政とは異なる観点から提言・活動をすることにより、新たな発見をすることができるからではないでしょうか。行政は、地域における行政を自主的かつ総合的に実施します。これに対して、青年会議所は、20歳から40歳までの青年経済人による地域の発展という青年としての観点からまちづくりに対する提言・活動を行います。青年会議所として、行政と協力するとともに、独自の観点からの事業を行うことにより、沼津のまちをより明るくできるのではないのでしょうか。

そのためには、沼津青年会議所としては、広く知見を集めるために、立場や考え方の異なる他団体・個人と協働して、様々な意見を吸い上げて形にしていくことが必要です。私たちが様々な意見を吸い上げ、それをまちづくりに反映する、というプロセスを経ることにより、様々な考えが反映され、多様性のあるまちづくりがなされ、沼津のまちはより活気が出てくるのです。

我々は、青年としてまちづくりを行い、必ずやこのまちをより希望にあふれるまちにしていきます。

活発な組織となるために

青年会議所が若者の様々な意見を反映させるためには、人材の多様性が必要となります。また、組織が活力にあふれているためには、組織内において活発な意見交換がなされ、新しい発見が継続的になされる組織である必要があります。

そのような組織であるためには、まずは、青年会議所内において様々な意見が出るために多くの会員がいることが必要となります。ここに会員数の増強が必要な理由が存します。

では、会員数の増強を図るためにはどのようにすればよいのでしょうか。それは、会員一人ひとりが当事者意識を持って、我々の青年会議所活動の意義や楽しさを広めていく必要があります。私たちの行っている活動は、まちづくりに青年経済人としての視点を提供するという大きな意義があります。この意義を認識した上で、我々の活動の意義をぜひとも広めていきましょう。また、我々が青年会議所活動を行うに当たっては、職場、家族等様々な方の協力が必要となります。そのような周囲の方々に理解されない青年会議所活動では、まちを動かすことは困難です。我々が青年会議所活動を行うことができることを当然のこととしてとらえず、そのことへの感謝を忘れ

てはなりません。むしろ、青年会議所の意義、楽しさを知ってもらうことにより、青年会議所活動への協力を求めることができるのです。

青年会議所活動をより多くの方に知ってもらい、青年会議所活動に興味を持ってもらうことが必要です。そのうえで、興味を持っていただいた方々には青年会議所活動に協力する、青年会議所に入会するというきっかけを作ります。

結語

現在、我々を取り巻く環境は、刻一刻と変わっています。そのうえで、我々に何ができるのか。伝統を継承しつつ、新しいものを生み出していく。その中で、一人ひとりが自分で考え、このまちをより明るい、希望あふれるまちにしていきましょう。みなさん、一年間一緒に頑張り抜きましょう！

副理事長所信

副理事長 中沢 文昭

我々は「伝統」という言葉をよく口にします。広辞苑によれば「伝統」とは、「ある民族や社会・団体が長い歴史を通じて培い、伝えて来た信仰・風習・制度・思想・学問・芸能など」と記されております。一方、これとよく似た言葉で「慣習」という言葉があります。「慣習」とは、「ある社会で長い間にみんなに認められるようになり、いつもそのようにする決まりとなっているならわし」と記されています。沼津JCにも、さまざまな「慣習」が存在しますが、それ自体は「伝統」ではありません。

それでは、沼津JCの伝統とはいったい何なのでしょう。礼節を重んじ、常に他人を尊重し、そして何事も本質を見極めた上で、確固たる信念を持ち、組織力をもって邁進する。このような無形の精神性や理念の継承こそが、沼津JCの伝統であると私は考えます。我々は如何なる時代になろうとも、先達者が培われてこられた「伝統」という精神的な価値観をこれからも脈々と引き継いでいかなければなりません。

しかし、時代の変遷と共に変革していかなければならない慣習があるのではないのでしょうか。例えば、月に一度開催される例会は、JAYCEEとしての確認の場であると同時に、JAYCEEの意識を統一する場であり、我々がJC活動を行う上で非常に重要な会議です。「明るい豊かな社会」の実現を目指す上で、会員のモチベーションを高めるとともに、社会の変化に対応した質の高い事業を展開し、今まで以上に有意義な時間となるよう、これまでの慣習にとらわれることなく、変革していく必要があると考えます。

例会運営に限らず、あらゆる活動においても、一つひとつの慣習を見直し、社会の変化に対応した「変革」を進めていかなければ、我々の未来に対して何の進化も生み出すことができません。これは、沼津JCのみならず、地域社会一般にいえることです。

地域を想う我々が、我々だからこそ生み出せる希望をつくるために、自己成長、会員拡大へと全力で取り組んでいきます。

常に素晴らしき沼津JCであれ

副理事長所信

副理事長 中村 謙介

近年の沼津青年会議所において、会員数の減少は喫緊の課題です。なぜ、そのような事態を招いたか。一つの要因として、私たち正会員が、これまで外部の方々に会の魅力を十分にお伝えできなかったのではないのでしょうか。そうだとすれば、その原因はどのようなものでしょう。

例えば、個々の正会員が、会に魅力を見いだせないという場合があるかもしれません。なるほど、自分が魅力を見いだせない事柄について、他者にその魅力を語ることは難しいでしょう。そして、あらゆることについて言えることですが、物事の魅力は自ら見いだしていくしかありません。

しかしながら、青年会議所活動には様々な魅力があります。

例えば、強固な結束・連携に裏打ちされた、連帯感の強い同世代の友人を作ることができます。

例えば、地域を牽引する存在たるべく、自らの資質を向上させることができます。

杉澤研三委員長率いる「会員・全力UP委員会」は、正会員が会員同士の結束・連携を強めることができるような設えを、年間を通じて行います。また、正会員が地域を牽引する存在たるべく、正会員ひとりひとりが資質を向上できるような機会を正会員に提供してまいります。また、その結果として、個々の正会員が会の魅力を自ら見だし、他者にその魅力を語るできるよう会を支えてまいります。

また、外部の方々に会の魅力を十分にお伝えできなかった原因として、例えば、その役割を、拡大を担当する部署のみに委ねる傾向が会内にあったのかもしれません。

しかしながら、会員数の減少が喫緊の課題である現在、外部の方々に会の魅力をお伝えし、会員の増強を図ることは個々の正会員が当事者意識を持って取り組まねばならない問題です。

「会員・全力UP委員会」は、会員拡大に関し、個々の正会員が当事者意識を持って取り組むことができるような仕組みを整えます。具体的には、拡大に関する情報を正会員の間で共有できるようにいたします。また、個々の正会員が他者に対し会の魅力を伝達する一助となるような手法を検討・考案いたします。

最後になりますが、私自身、青年会議所に入会して以降、出向や事業の運営、そして様々な研修を受講し、多くの得がたい友人達との切磋琢磨の中、成長する機会をいただきました。これまでの経験を活かして原田理事長をお支えし、副理事長としての職責を全うする所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

副理事長所信

副理事長 藤原 維仁

1954年に戦後の地域経済の復興及び地域社会の発展を目的として沼津青年会議所が誕生して62年が経ちました。長い間諸先輩方が繋いでこられた歴史のなかで、本年副理事長という大役を仰せつかり、光栄に感じるとともに、このような機会を与えていただいたことに心から感謝申し上げます。

沼津青年会議所の60余年の歴史のなかで、世界情勢や人々の価値観、この地域を取り巻く環境と同様に、私達に求められる活動も変化していると感じます。私たちがこれからも地域に求められ、必要とされ続けていくためにはどうしたらよいのでしょうか。青年会議所活動の最大の特質は活動が40歳までに制限されていることです。組織の新陳代謝が常に行われ、私たちはいつの時代も青年であるわけです。そうであるからこそ、私たち一人ひとりが変化を恐れず、若者らしく生き活きと活動することが求められます。また、いまこの地域に何が起こっていて何が必要とされているのか。このことに常に気を配る必要があります。なぜなら我々の住まうまち・沼津は他のどことも違う特性をもったまちだからです。この地域の特性を見極め、未来を見据え、時代に即した活動をしていくことで、我々は必ずこの地域に求められ、必要とされ続けていくでしょう。一方で、我々の活動には「明るい豊かな社会を築く」という普遍の目的があります。この目的を達成するためには、地域の将来に対する希望が不可欠です。本年度の沼津JCスローガンは「熟慮断行～明日が希望であるために～」です。地域の希望のために、まずは我々自身が希望を持ち、一日一日を全力で生きていきたいと思います。

鈴木宏和委員長率いる総務・財務委員会は、私たちの活動に欠かすことのできない委員会です。委員会の担いは多岐に渡りますが、諸先輩方から受け継いだ伝統を継承し、時には時代に即した新しいものへと昇華させて、次代へ伝える委員会であると考えます。規程に定められた業務を厳格に遂行するということを徹底し、会員が青年会議所活動を円滑に行うための支援をすべく委員会運営を行って参ります。

2008年に沼津青年会議所の門を叩いてから多くの機会やご縁をいただき、様々な経験をさせていただいて今日の私があります。私にとってラストイヤーとなる本年、2017年度原田健一理事長の下、これまでのJC活動を通じていただいたものをお返しするつもりで副理事長の職務を全う致します。一年間どうぞ宜しくお願い致します。

専務理事所信

専務理事 小野 好之

この度、原田健一理事長より2017年度専務理事を仰せつかり、身の引き締まる思いです。専務理事として様々な情報を正確かつ速やかに発信し、メンバー間のよりきめ細やかな連絡調整と対内、対外的事務の把握に努めてまいります。また出向や各種事業に参加を促すことにより青年会議所のメリットを感じていただきメンバーの資質向上を図ります。得た学びをLOM内に還元していただきLOM全体の組織力向上を図ってまいります。

青年会議所が私たちメンバーに平等に与えてくれるのは、様々な知識や経験を得られる機会と、多くの人との出会いだと私は考えます。しかし、与えられた機会や出会いを活かすことができるかは、どれだけ自ら積極的に青年会議所活動に参加し、どれだけ多くのものを求めるかによって変わります。青年会議所に所属していただける時間には限りがあります。何かを与えられるのを待つのではなく、ひとつでも多くのものを求め、自分の成長にしていくべきです。また、当たり前のことですが、私たちは青年経済人であります。まずは自分たちの仕事や家庭を第一に考え、自社の中では経済活動をしっかりとおこない、経済基盤を築きつつ、青年会議所活動を両立させることができなければ、社会貢献はなし得ないのではないのでしょうか。

私たちは明るい豊かな社会の実現に向けて、限り有る時間を最大限に活かし、私たちが率先して明るい豊かな人になる為に沼津青年会議所の中で日々成長し続ける必要があります。元気な青年会議所が存在することにより地域が活気づきます。まだまだ若輩者ですが先輩や現役メンバーの皆様から教をいただきながら、精一杯この役を務めていきます。

一年間どうぞ宜しくお願いします。

◎静岡ブロック協議会 出向者

J C 発 信 委 員 会 会計幹事 竹 村 俊 克

中 村 謙 介

ア カ デ ミ ー 委 員 会

山 本 真 太 郎

峰 田 泰 成

山 口 遼

「とうかい号」支援委員会

ブ ロ ッ ク 大 会 実 行 委 員 会

山 下 太 一

未 来 創 造 委 員 会

細 溝 剛 久

◎行政等委任委員

エフエムぬまづ株式会社 取締役	理 事 長
沼津駅の高架化を実現する市民の会 副会長	理 事 長
沼津市市民憲章推進協議会	理 事 長
沼津市明るい選挙推進協議会	藤 原 維 仁
沼津駅高架化を実現する市民の会 事務局	藤 原 維 仁
沼津市「社会を明るくする運動」実施委員会	藤 原 維 仁
エフエムぬまづ番組審議委員会	藤 原 維 仁
沼津市特別職報酬審議会 委員	藤 原 維 仁
燦々ぬまづ推進委員会	藤 原 維 仁
公益財団法人沼津市振興公社 理事	中 村 謙 介
沼津共同募金委員会 運営委員	中 村 謙 介
沼津市社会福祉協議会 評議委員	中 村 謙 介
沼津市夏まつり実行委員会灯ろう流し部会長	中 村 謙 介
沼津市勤労青少年ホーム運営審議会	中 村 謙 介
静岡県立沼津西高校 学校評議員	中 村 謙 介
環境保全審議会ゴミ対策	中 沢 文 昭
沼津夏まつり実行委員会	中 沢 文 昭
よさこい沼津まつり実施運営部会	中 沢 文 昭
よさこい東海道実行委員会	中 沢 文 昭
沼津市暴力追放推進協議会 監事	中 沢 文 昭
沼津国際交流協会 理事	中 沢 文 昭
沼津市緑化推進協議会	専 務 理 事
沼津の森実行委員会	専 務 理 事
沼津市行政改革推進委員会	専 務 理 事

2017年度例会担当表

月	総 会		第1例会	
1			11 (水)	まちづくり委員会 (新年賀詞交歓会)
2	8 (水)	総務・財務委員会 (定時総会)	8 (水)	総務・財務委員会 (定時総会)
3			14 (火)	渉外・広報委員会 (東部9JC合同公式訪問例会)
4			7 (金)	会員・全力UP委員会 (沼津JCデー)
5			8 (月)	まちづくり委員会
6			8 (木)	渉外・広報委員会
7			28 (金)	会員・全力UP委員会 (狩野川灯ろう流し)
8	8 (火)	総務・財務委員会 (定時総会)	8 (火)	総務・財務委員会 (定時総会)
9			10 (日)	渉外・広報委員会 (静岡ブロック大会)
10			10 (火)	総務・財務委員会
11			8 (水)	まちづくり委員会
12	4 (月)	総務・財務委員会 (定時総会)	8 (金)	会員・全力UP委員会 (卒業式)

定例会議日

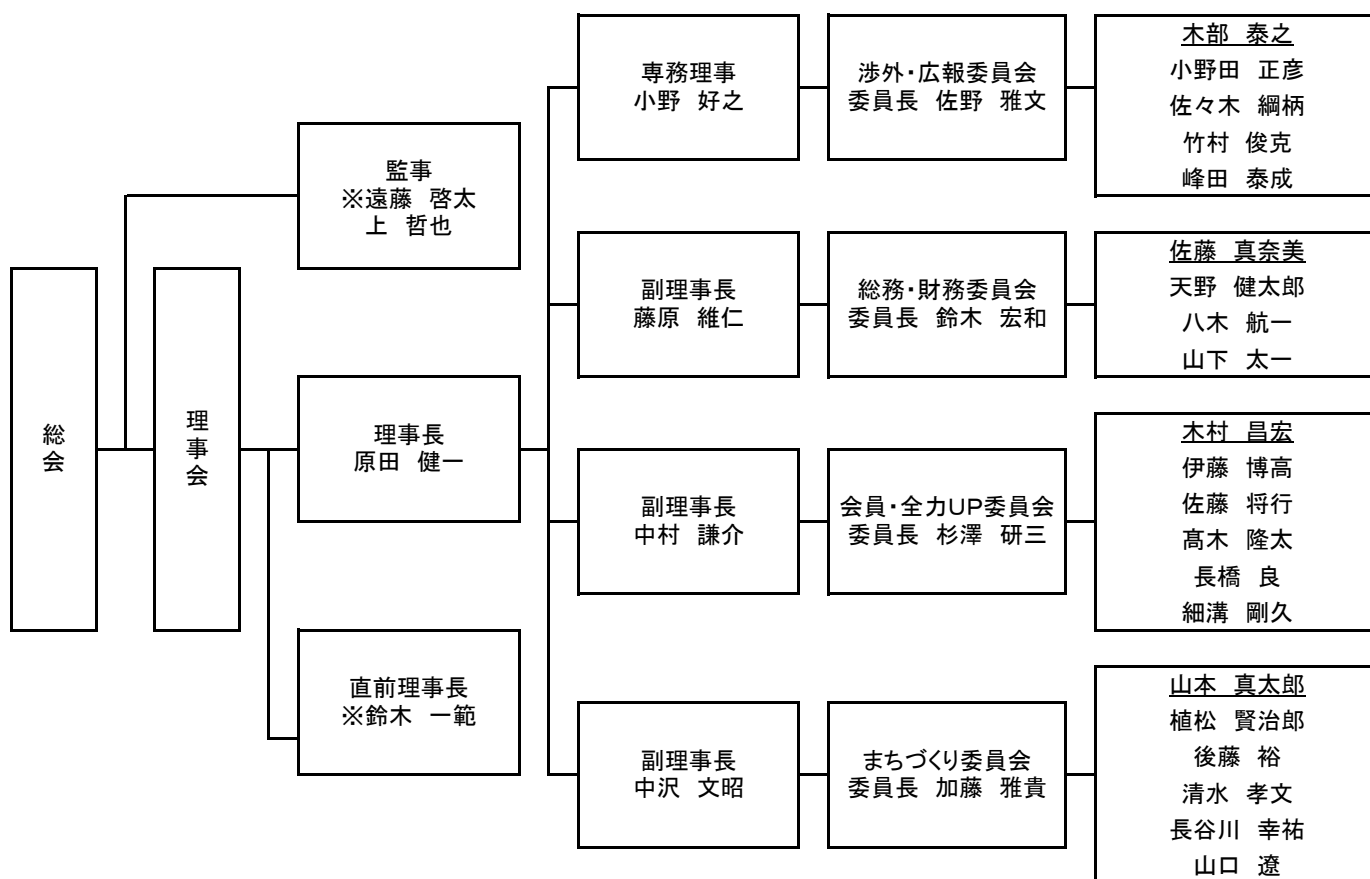
会合日		会 合 名	時 間	場 所
第1水曜日		正副理事長会議	19:00 ~ 21:00	JCルーム
第3水曜日		理事会	19:00 ~ 21:00	JCルーム
8日		第1例会		
最終金曜日		財務審査	19:00 ~ 21:00	JCルーム
定例委員会日	第4火曜日	渉外・広報委員会	19:00 ~ 21:00	JCルーム
	22日	総務・財務委員会		
	第4火曜日	会員・全力UP委員会		
	第4火曜日	まちづくり委員会		
28日		JCルーム清掃日	19:00 ~ 21:00	

2017年度 公式日程

	日本JC・JCI	東海地区	静岡ブロック	記念式典	例会等	理事会
1月	19日(木) ～22日(日) 京都会議 21日(土) 総会 (京都)	20日(金) 第1回会員会議所会議 (京都)	29日(日) 第1回会員会議所会議 第1回出向者合同会議 (熱海)		11日(水) 第1例会 新年賀詞 交歓会	18日(水)
2月	17日(金) ～19日(日) 金沢会議 (金沢)				8日(水) 定時総会 8日(水) 第1例会	15日(水)
3月	25日(土) 総会 (東京)	未定 第2回会員会議所会議 (未定)	26日(日) 第2回会員会議所会議 (御殿場) 未定 第44回JC青年の船 「とうかい号」オリエンテーション (未定)		14日(火) 第1例会 東部9JC合同 公式訪問例会 (沼津)	15日(水)
4月		未定 第44回JC青年の船 「とうかい号」結団式 (名古屋)	23日(日) 第3回会員会議所会議 (御殿場)	16日(日) 浜北JC 40周年式典	7日(金) 第1例会 沼津JCデー	19日(水)
5月			21日(日) 第4回会員会議所会議 (御殿場)		8日(月) 第1例会 19日(金) 静岡ブロック じゃがいも大 (浜名湖)	17日(水)
6月	8日(木) ～11日(日) JCI ASPAC (ウランバートル) (モンゴル)	未定 第44回JC青年の船 「とうかい号」(上海)	25日(日) 第5回会員会議所会議 (御殿場)		8日(木) 第1例会	21日(水)
7月	22日(土) ～23日(日) サマーコンファレンス (横浜)	未定 東海フォーラム2017 (愛知) 未定 第3回会員会議所会議	未定 第6回会員会議所会議 (在宅)		28日(金) 第1例会 狩野川 灯ろう流し	19日(水)
8月			未定 第7回会員会議所会議 (在宅)		8日(火) 定時総会 8日(火) 第1例会	16日(水)
9月	29日(金) 総会 (埼玉) 28日(木) ～1日(日) 全国大会 埼玉中央大会 (埼玉)		10日(日) ブロック大会 (御殿場)	3日(日) 掛川JC 50周年式典 24日(日) 富士JC 60周年式典	10日(日) 第1例会 ブロック大会 (御殿場)	20日(水)
10月			14日(土) 第8回会員会議所会議 第2回出向者合同会議 (浜松)		10日(火) 第1例会	18日(水)
11月	6日(月)～ ～10日(金) JCI 世界会議 (アムステルダム) (オランダ)	未定 第4回会員会議所会議 (未定)			8日(水) 第1例会	15日(水)
12月			未定 第9回会員会議所会議 (在宅)		4日(月) 定時総会 8日(金) 第1例会 卒業式	20日(水)

一般社団法人沼津青年会議所

2017年度 組織図



※特別会員
— 副委員長

特別会員

59 故 宇野 紳七郎 (03年永眠)
61 故 野田 修 (15年永眠)
62 故 高橋 明 (15年永眠)
63 故 山内 益次郎 (06年永眠)
67 故 中山 欽司 (94年永眠)
故 石川 三雄 (90年永眠)
68 友森 寛
69 水口 昌夫
71 故 大井 一郎 (16年永眠)
故 白壁 敏夫 (06年永眠)
鈴木 昭身
故 辻 昌吉 (05年永眠)
故 中川 茂男 (03年永眠)
故 中西 幸雄 (06年永眠)
72 後藤 全弘
故 保坂 静夫 (15年永眠)
故 上 作一 (93年永眠)
故 安田 昌訓 (93年永眠)
73 上田 雅義
故 植松 清高 (13年永眠)
大木 一男
故 金井 敬策 (08年永眠)
故 長谷川 愛次 (06年永眠)
故 松浦 喜男 (03年永眠)
74 市川 厚
片岡 一郎
故 加藤 晴俊 (99年永眠)
小林 日出男
杉本 節生
杉山 一義
高橋 啓之
故 立木 栄一 (07年永眠)
故 早崎 恒治 (11年永眠)
故 北条 利郎 (10年永眠)
75 故 大川 順康 (10年永眠)
庄司 睦
故 田中 穂積 (98年永眠)
出木 超
野田 久雄
故 古郡 安雄 (11年永眠)
星谷 泰男
故 松田 久義 (03年永眠)
故 渡辺 孝雄 (04年永眠)
76 池田 雅博
小西川 俊吾
故 柴田 栄吉 (11年永眠)
故 清 俊夫 (96年永眠)
高村 政明
坂東 功一
渡辺 良太郎
故 市川 治男 (88年永眠)

77 故 遠藤 康昌 (02年永眠)
岡田 剛武
菊地 俊雄
佐藤 徳太郎
故 佐藤 亘弘 (07年永眠)
故 平山 義人 (98年永眠)
故 山田 喜万 (16年永眠)
故 吉田 修 (93年永眠)
78 故 大川 正夫 (12年永眠)
故 近藤 安敏 (16年永眠)
杉山 美
木取 賢吉
真島 秀行
79 秋山 芳生
小川 義次
影山 恒義
故 桑原 史雄 (96年永眠)
故 鈴木 皓一郎 (02年永眠)
故 高村 光治 (16年永眠)
80 故 石井 種生 (16年永眠)
今井 俊之
諏訪部 恭一
持田 真幸
81 故 伊藤 豪俊 (09年永眠)
小笹 皓平
小林 健次郎
白鳥 篤
南谷 直美
82 芦川 稔
小笠原 一夫
金刺 勝
杉山 勲
宮沢 健二
村松 佳雄
83 故 内野 鉄紀 (07年永眠)
故 小野 恭嗣 (12年永眠)
掛橋 弘
故 瀬戸 和海 (09年永眠)
竜野 輝夫
原 富太郎
増田 陽三
水田 嘉昭
84 金崎 明弘
故 城所 延芳 (10年永眠)
後藤 靖雄
鈴木 隆義
高橋 浩
前田 唯良
宇野 統彦
杉山 宏幸
鈴木 敏
辻 進
土屋 照夫
長橋 和彦
野永 巖
村松 敏弘
渡辺 洋
85 故 佐々木 浩男 (16年永眠)
佐藤 光義
故 鈴木 一信 (97年永眠)
長谷川 徹
一杉 秀二
故 藤原 規夫 (16年永眠)
故 宮代 定典 (15年永眠)

87 故 浅見 正昭 (13年永眠)
芦川 勝年
一場 道彦
岩崎 英一
近藤 剛
酒井 吉彦
三高 正明
関原 規由
堤 正喜
長澤 芳明
故 久松 繁 (99年永眠)
山田 憲市
88 石川 利郎
植松 哲
故 長田 豊久 (11年永眠)
木村 保成
栗田 満
向坂 義次
庄司 一洋
杉山 裕将
高橋 正
長橋 靖
日吉 照郎
故 本多 均 (13年永眠)
故 大橋 博 (90年永眠)
89 赤堀 肇紀
故 居山 直行 (14年永眠)
古地 利和
長谷川 均
濱道 知
原 俊範
廣瀬 進一郎
藤田 昇
松下 方文
山田 薫
90 芦川 豊
故 稲木 祥雄 (12年永眠)
大池 誠実
木村 雅志
鈴木 啓司
故 高橋 新一 (07年永眠)
安田 政義
91 板井 義文
佐川 康夫
勸山 光明
高村 誠
土佐谷 和貴
山下 光彦
92 岩下 龍雄
故 植松 郁男 (03年永眠)
江本 宗昭
大嶽 輝晃
大嶽 裕裕
尾崎 敬治
加藤 進
工藤 恵子
後藤 正明
後藤 行宏
杉山 正則
鈴木 一郎
鈴木 典之
深瀬 和彦
望月 美樹
故 山内 一芳 (15年永眠)
93 石原 正和
井上 孝喜
尾澤 裕
小原 嘉弘
神部 芳道
五味 芳道
庄司 喜則
辻村 浜夫
平林 秀夫
前田 章
前田 耕輔
望月 達也
山本 豊一

94 綾部 恵市
石川 秀雄
江藤 晃好
大橋 英司
柏木 順孝
金井 隆直
神井 農彦
後藤 健
佐藤 直毅
庄司 邦夫
外 信之
田中 治之
牧野 栄一郎
山田 和彦
95 井草 基之
故 岩崎 一弘 (13年永眠)
岡本 隆行
塩崎 享一
島本 祐史
鈴木 伯明
鈴木 泰博
水口 隆太
米山 明德
96 石井 裕
遠藤 利彦
佐々木 敏祐
杉山 由博
鈴木 延孝
鈴木 正之
松井 泰樹
97 石川 雄一郎
井村 和弘
尾和 康男
影山 弘
加藤 修一
栗田 恵市
庄司 康雄
田代 功
江 浩
森田 州治
山口 和也
98 金澤 清文
上 精一郎
故 近藤 恒二郎 (01年永眠)
佐藤 浩人
鈴木 一
鈴木 正純
増山 敬一
宮澤 英紀
渡邊 聡
99 秋山 佳彦
稲葉 茂
梅島 佐一
遠藤 豪
長田 健一
柏木 雅博
上條 篤士
木村 光正
工藤 政則
久保田 実
近藤 千秋
後藤 竜樹
斉藤 和子
故 塩崎 栄一 (04年永眠)
故 鈴木 孝明 (06年永眠)
高橋 誠
土屋 英治
土屋 恭博
袴田 敏照
保坂 孝始
故 峯村 重輝 (06年永眠)
渡邊 朗

鈴木 俊史
鈴木 康一
芹沢 幸
竹内 純子
徳田 和人
土井 宣博
中野 幸和
野秋 和弘
服部 徹
服部 隆利
福島 洋一郎
横山 政遵
01 市川 浩康
植松 清仁
荻原 誠弘
加藤 功一
白壁 圭一
高橋 卓己
平野 裕行
吉野 聖周
02 石渡 慎一
小出 雄志
近藤 浩一
齋藤 一哲
齋藤 泰隆
鈴木 孝章
中江 喜和
服部 晴久
平山 智美
松下 知亮
宮坂 宜司
山本 宏明
池田 隆太
伊藤 英泰
大村 彰宏
奥村 茂文
小野 博文
小野 元章
金子 俊道
川口 博賢
國武 正樹
後藤 正英
清水 一郎
鈴木 直人
吉川 渡邊 豊
03 青木 秀実
青嶋 隆憲
池田 康由
田田 佳和
石川 佐和子
岸本 道隆
小林 恵美子
小林 彦彦
近藤 孝浩
高木 光浩
永田 光浩
福室 健一郎
室伏 強智
安江 智真
04 飯田 太志
大石 将智
石澤 勝幸
工藤 俊彦
栗原 卓也
原山 登樹
清谷 登浩
露木 浩育
山口 育男
05 井出 尚武
大城 一貴
岡田 政彦
原野 正裕
前田 泰広
06 伊海 康之
植松 豊守
木村 太郎
小林 太郎

榊原 晃浩
白壁 克美
高橋 孝幸
常峯 幸優
松本 紀子
三須 左武
08 伊藤 謙志
居山 哲茂
岩井 茂樹
小畑 秀明
川田 宜与
原川 章弘
藤島 和信
山下 渡迅
09 芦澤 剛彦
小笠原 啓之
勝又 誠博
柴田 司雅
柴屋 雅一
土屋 雄一朗
堤 昭人
10 井草 雅彦
小笹 真也
川口 刚浩
芹澤 剛浩
原田 一哉
松田 米山
11 金子 恭子
軍司 芳孝
小早川 幸磁
榊原 優子
二侯 延行
12 種田 善一
平菅 賢介
沼沼 諷訪
部 健治
半渡 勝也
渡邊 勝也
13 小山 弘道
諏訪部 剛志
高木 惠市
橋本 泰正
山田 奈帆
米元 孝一
14 勝又 康充
柴田 常有
多久 正邦
曾布川 麻紀子
15 池田 高士
加藤 真澄
川口 明子
児島 佳代
杉澤 教人
杉澤 勝
十八公 淨滋
長島 玲美
宮下 秀人
16 遠藤 啓太
大村 智紀
岡田 幸明
勝俣 孝友
木村 友一
鈴木 智善
鈴木 智始
田田 久昌
武田 保昌
宫内 弘拓
森松 充也
山下 剛嗣

(特別会員 374名)

03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	生年 (年齢)	人数
					藤原		八木				加藤	佐野	佐藤	77 (38)	6
上		天野		木村(昌) 後藤			長橋		中村		小野			78 (37)	7
					清水				原田				細溝 山本	79 (36)	3
						中沢							佐々木	80 (35)	2
						伊藤						杉澤	鈴木(宏)	81 (34)	3
											長谷川			82 (33)	1
														83 (32)	0
												山下(太)		84 (31)	1
						向坂				植松			小野田	85 (30)	3
							竹村					木部		86 (29)	2
														87 (28)	0
													峰田	88 (27)	1
														89 (26)	0
													岩水	90 (25)	1
													山口	91 (24)	1

◎アンダーラインは早生まれ